東京都立東大和南高等学校
校長 古溝 紀也（こみぞ としや）

I スクールミッションとスクールポリシー

【教育目標】「克己・友愛・創造の心を培う」

【目指す学校像】

1 スクール・ミッション

「克己・友愛・創造の心を培う」を教育目標とし、常に自己実現を目指して、己に厳しく努力し続ける創造性豊かな生徒を育成します。学習指導、教養教育、進学指導及び部活動等への取組と実績に基づき、社会に貢献するとともに、自らの好奇心を満たして豊かな人生を構築できる人材を育成します。

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

「授業で勝負」を合言葉に、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を実践して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、人が自分の人生をより良く生きるため」という「学び」本来の意義の浸透を図る。さらに国際理解教育を推進して、言語能力と論理的思考力育成に取り組みとともに、国際交流等とおして日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

教養主義に基づき文理バランスよく学習に取り組ませるとともに日々着実に努力を重ねさせることで自信をもたせ、「第一志望を諦めない」指導に組織的に取り組む。教科を横断的に学習することで自己表現と課題発見・解決力を養成する。また、国公立大学や難関私大に果敢に挑戦し、自らが希望する幅広い進路を切り開く突破力を生徒に身に付ける。

(3) アドミッション・ポリシー

期待する人材は次の4点です。

- ① 高校生活を自己発見の場とし、本校での学習と諸活動を積極的、継続的に行い、その経験を将来に生かすことができる人材。
- ② 難関大学進学について高い志と目標を掲げ、その実現に向けて日々学習に取り組み、積極的にチャレンジする意思をもち、学校と家庭において自ら学習に取り組むことができる人材。
- ③ 中学校での部活動、委員会活動、学校行事又は校外でのボランティアなどに積極的な活動をしてきた人材。
- ④ いろいろなことに関心をもち、幅広い教養を身に付けようとする高い意識をもつ人材。

II 中期的目標と方策

中期目標 「2050 東京戦略」に基づき、以下の取り組みを行う。

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行うことで、質の高い学びを実現し、高い志を実現する学力を育てる。
- 2 生徒個人に関するデータを収集し、生徒の能力・適性等を把握して、入学時より一段とステップアップした進路目標を実現する。
- 3 生徒一人一人の個性を尊重し、自己の可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、社会に受け入れられる自己実現を支える。

- 4 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
- 5 環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性のある生徒を育成する。
- 6 魅力向上に向けた実行プログラムを構築する。
- 7 組織的・機動的な体制づくり。
- 8 経営企画機能の充実及び強化。

方策：

1 学習指導

土曜授業及び長期休業中の講習や講座の実施、自習室の活用、スクール・ライフ・バランス確保による学習時間の確保、年間授業計画に基づく学習指導とHPを活用した「見える化」、教材と定期考査の統一による効果測定の精度向上、授業評価や相互授業参観による授業改善、デジタル化対応の推進、都の事業を活用した多言語活動の推進等を通して、生徒の学ぶ意欲を高めて思考力、判断力、表現力を培う。

2 進路指導

進路部主導のもと、学年・教科の連携を強化して、進路指導校内研修の充実、教員の進路指導力向上、補習・講習等の組織的取組、教員・生徒・保護者への進路情報の提供、進路室・自習室の活用促進等により、「第一志望をあきらめない」進路意識を醸成する。その成果として進学実績の向上を得る。

3 生活指導

生徒部主導のもと、生徒が命を大切に、心身ともに健康で、且つ安心して学校生活を営むことができるように、教育相談体制・特別支援教育体制の充実を図るとともに、「いじめを絶対に許さない」という意識を育み、早期発見・早期対応に取り組む。また、社会の一員としての集団生活のマナーを周知・徹底して、全教員による意図的・反復的な指導により、生活習慣や自律性、社会性などの規範意識を身に付けさせる。

4 特別活動・部活動

学校行事や部活動で、企画力や課題解決力を育み、協働により自己有用感や達成感を得させる。セーフティ教室、防災教育、主権者教育、特別支援教育では、自他の命や健康について考えさせ、自助共助や多様性の受容、社会参画意識醸成を推進する。また、海外修学旅行を通して豊かな国際感覚を育成する。

5 環境教育

SDGsを推進し、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、現代社会の諸課題を探究し、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動等を通して環境問題に配慮した生活習慣を確立させる。

6 広報活動の充実

学校全体で見学会・説明会の実施や広報資料の刷新、ホームページの充実等に取り組むことで広報活動の改善を図り、効果的な情報発信により、目的意識が高く、自己管理能力の高い志願者の確保を目指す。

7 組織体制

組織的な業務改善、AIの活用や精選すべき業務の明確化等校務の効率化によるライフ・ワーク・バランスの推進と仕事のしやすい環境づくりを行う。また、サービス事故根絶の取り組みを行う。

8 経営企画室の活性化

予算編成方針に基づいて、予算の効率的な編成・執行に努めるとともに、施設管理、備品管理、学事、

環境整備、施設開放、広報を円滑且つ適切に進める。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

推進事業等

東京都教育委員会指定 進学指導研究校

東京都教育委員会指定 海外学校間交流等推進校

東京都教育委員会指定 部活動等への外国語講師派遣校

東京都教育委員会指定 「AIを活用した英語教育の充実事業」実施校

東京都人事部勤労課労務担当指定 職員室環境改善実施校

1 学習指導（学びの基盤を固める）

- ① 東京都教育ビジョン（第5次）、「未来の東京」戦略及び「東京都教育情報化推進計画」に基づき、Teamsの活用など、全ての教員が学習指導のデジタル化技術を活用した教育の推進に取り組む。一人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びと実践の問題演習等を計画的に取り入れる。
- ② 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。特に「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（第4次推進計画）に基づく生徒の体力向上及び健康の保持増進に努める。体力テストの実施により、生徒の体力や運動能力を把握し、体育活動に役立てる。
- ③ 学力スタンダードに基づいて、教科指導のマネジメントを定着させる。模範授業参観や教科研修、教員相互の授業見学や、授業評価アンケート結果の教科分析に基づく校内研修を実施して、教員各自が専門性の向上に取り組み、授業力向上を達成し、知的好奇心を育む。「授業で勝負」・「教養で勝負」を合言葉に、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を実践して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現と観点別評価（3観点）の改善を図る。
- ④ 計画的かつ継続的家庭学習習慣等、自学自習の習慣化充実を図る。この成果をみるため、小テスト、予習・復習チェック、ノート提出、レポート提出等を行う。
- ⑤ 学習に対する集中力を養い、大学等受験に対する意識を高める。全学年定期的に生活実態調査を実施し、その結果を三者面談等で活用することで進学意識を向上させる。
- ⑥ 「東京グローバル人材育成計画‘20」及び「東京グローバル人材育成指針」を踏まえ、基盤となる英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成など、グローバル人材の育成に向けた英語力を強化する。

2 進路指導（自ら未来を切り拓く力の育成）

- ① 大学入試改革等への対応を的確に実施する。また、英語4技能試験対策としてのGTECの実施・TGGの活用を継続して取り組む。実用英語検定など全ての英語資格試験受験を推進し可能な支援を行う。また宿泊TGGへの参加を推進する。
- ② 進路希望調査を学期に1回程度実施して、進路希望や学習時間等の定点観測を行うとともに、模擬試験を計画的に実施し、結果分析を通して学力の推移を把握し、指導に活かす。
- ③ 第一志望を諦めない進学意識を育成する。1学年は国公立大学訪問、2学年は大学模擬授業を実施し、3学年は出願対策講座を開催するなど、学習意識向上を図る。
- ④ 長期休業日や土曜授業午後等に講習・補習、教養講座を全校体制で実施する。部活動・学校行事により希望する講習に参加できないことのないように配慮する。夏季講習実施計画は5月連休前を目途に生徒に提示する。有効と認める場合にはオンラインによる講習を積極的に実施する。

- ⑤ 三年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、各学年・教科と連携して、組織的・計画的な進路指導を進めるとともに、進学実績の持続的改善が可能な進学指導体制を構築する。
- ⑥ 自習室や自習スペースの確保により、最長で午後7時50分まで生徒に校内で学習できる場を提供する。また、生徒の自主的学習活動支援に努めるとともに、自習室に卒業生サポートティーチャーを配置する。
- ⑦ 進路部および学年が、掲示板の活用や進路通信を通して生徒・保護者・教員への時機を捉えた進路情報を発信する。また、昼休みや放課後、長期休業日の進路相談に対応できる体制を整える。進路行事には保護者の参加も積極的に促し、啓発と情報共有を図り、進学指導体制を充実する。

3 生活指導（生徒目線に立った特別な支援の充実）

- ① 自転車通学については、保険加入とヘルメット着用を徹底する。また、講話や資料配布を通して安全教育の徹底に取り組む。
- ② セーフティ教室で、携帯電話の安全使用について講習を行う。特に携帯電話の使用ルールとマナーについては「SNS 東京ルール」に則って全教員共通の認識と保護者の協力を得て生徒に徹底させる。
- ③ 命と健康・安全を大切に、自分を活かし他者を尊重して行動できる力を育むために熱中症対策や応急処置等、命の安全と健康に関わる講習を実施する。自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づき、生徒の自殺予防に向けた教育を推進する。
- ④ 下校時刻（通常 17:00、特別居残 18:30）を厳守徹底させることで、生徒のスクール・ライフ・バランスを保護する。
- ⑤ 「都立高校生活指導指針」による系統的・計画的な指導で社会人としての規律・規範を身に付けさせ、人権に十分配慮して指導・助言を行う。生徒に寄り添い、個性や意見を尊重し、主体性を育む。
- ⑥ スクールカウンセラー（SC）とユースソーシャルワーカー（YSW）の活用や特別支援学校との連携を通して、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」に基づく取組の充実を図るとともに、知識やスキルの習得とカウンセリングマインドの定着に取り組む。また SC による全員面接や生徒支援委員会の活動を通して、生徒が抱える課題について教職員間での共通認識を図るとともに、必要な合理的配慮等の支援内容の検討と対応を行う。
- ⑦ 外部機関と連携しながら主権者教育を行い、社会の一員としての参画意識を育てる。地域清掃等でボランティアマインドの醸成を図る。

4 特別活動・部活動（学習意欲・進路目標達成意識をエンカレッジする）

- ① 「東京グローバル人材育成指針」に基づく国際交流学習・異文化理解学習を推進し、その基盤となる生徒一人一人の英語コミュニケーション能力の向上を図る。特に 41 期生の海外修学旅行（台湾方面）の充実した実施を図り、次年度以降に的確に継承する。
- ② 学校行事や部活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育成し、企画・管理能力を育む。また、仲間との協働で、責任を重んじる態度の育成やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ③ スポーツに親しむ態度を育むために球技大会を実施する。
- ④ 合唱コンクールおよび楠翔祭（文化祭・体育祭）等の学校行事は、生徒が知的的好奇心と自己表現力を十分に発揮できる機会とする。また全国高等学校総合文化祭への参加・見学を推奨するなど、生徒がより質の高い芸術や文化などに触れる機会を大切にする。
- ⑤ 「部活で勝負」を合言葉に、部活動の振興を図る。年間目標、指導方針、指導方法等を HP で公表するとともに、スポーツ庁及び都のガイドラインに則って効率的且つ効果的な活動を行う。顧問会議、部長会

を開催して、暴言を含む体罰の根絶、いじめやいやがらせの防止、適切な活動メニューの実施を指導するとともに、部活動保護者会を適宜開催して、信頼関係の醸成や情報共有を図る。

- ⑥ 教員による部活動の把握を徹底し、銀行口座による部費の適正な管理及び執行を行うとともに、保護者への通知・報告を確実に行う。
- ⑦ 文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動は、規約に則って上位大会への進出に努めるとともに、その成果と課題を全教員で共有・検証する。また部顧問は所属部員の学力向上に教科担当や学級担任と連携して取り組む。

5 安全保持と環境美化（質の高い教育を実現するための環境改善）

- ① 関係機関や地域からの協力を得て、防災教育を推進し、自助・共助の精神や危険を予知し回避する能力を育成する。
- ② 緊急時の対応・連絡体制を整備して、特にアレルギー疾患や怪我等の緊急時等に全教職員で取り組むことができる体制を構築する。
- ③ 環境美化や緑化を推進し、ゴミ分別や節電・節水励行など、環境問題に配慮した生活習慣を確立することにより、質の高い教育の実現に資する。

6 広報活動の充実（発信先＝本校保護者と生徒・中学生と中学校・進学塾・卒業生）

- ① 「ミナミ（HYM）の魅力をどのように見せるのか」を第一に、学習情報、受検情報、部活動実績、学校行事、進路状況等について、ホームページ（週3回以上更新）やスクールガイドで情報を提供する。
- ② 中学校や学習塾主催学校説明会への参加、塾訪問等について、全教職員による体制で取り組む。このために、総務部の進行管理のもと、学校説明マニュアル更新と内容の見直しを行う。
- ③ 土曜授業を授業公開とし、夏季休業中に、学校見学会を実施する。また学校説明会を年2回以上実施する。また、個別相談会を年3回以上実施する。
- ④ 各部の活動状況に応じて中学生の部活動体験を実施する。特に文化スポーツ等特別推薦を実施している部は積極的に取り組み、優秀な人材の確保を目指す。

7 組織的な学校運営と働き方改革

- ① 「学校における働き方改革の推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの推進及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づく働き方改革の実現に向けた環境整備を実施する。学校フォルダ内の掲示板活用、デジタルによる発信、会議のペーパーレス化に取り組む。夏季休暇や年次休暇の計画的且つ積極的な取得や、育児・介護支援制度の有効活用を可能にする効率的な組織運営と教職員の意識改革を進める。
- ② 体罰、不適切な指導、暴言等の一掃、その他服務事故の根絶に向け、服務事故防止研修等あらゆる機会を捉えて服務事故防止に努める。
- ③ 主幹教諭・主任教諭の役割を明確化してOJTによる教員育成に取り組むとともに、若手教員と若手の行政系職員で研修を行い、教育課題の共有や解決の方策などの討論を通して組織力を高める。
- ④ 生徒の読書習慣確立のために、意図的且つ計画的な図書購入、図書委員会広報誌等の年3回発行、ビブリオバトルや図書館企画イベント、司書不在時の開館体制確立に取り組む。

8 経営企画室

- ① 経営企画室長と経営企画室員は学校の教育活動全般にわたり行政的視点に立った意見を発信する。
- ② 施設・設備の造改修は、真に必要な改修や修繕の優先順位を元にメリハリのある要望を行う。特に老朽化など安全上問題のある不具合は、学校経営支援センター経営支援室と連携して早急に改善を図る。
- ③ 予算執行状況を四半期ごとに確認し、未執行业業の計画変更指示により契約落差金を補正予算の財源として有効活用する。物品の有効活用に向けて事務処理を迅速に進め、当初予算計上の備品を8月末までに納入させる。また、予算の有効活用のため、センター執行率を50%以上とする。
- ④ 就学支援金制度について習熟し、適正かつ迅速な事務処理を行う。担任と連携して授業料未納者への督促を適切に実施するとともに、個人情報の適切な管理のために書類等の授受等管理を確実にを行う。
- ⑤ 既存物品の有効活用のために、校内物品の再整理と保管場所の整理等、管理体制を整える。また、都のあっせん情報を積極的に収集して、配置換えによる有益な物品の確保に努める。
- ⑥ 教職員が協力してごみの分類方法を検討し、資源ごみのリサイクルを推進する。また、電気、ガス、水道の使用量を毎日確認して節制に努め、状況を教職員・生徒に周知して省エネ意識を育む。

IV 重点目標と数値 ()内は前年度の達成値

- 授業改善と生徒の授業満足度増加 90% (80.8%) 参考；令和4年度は83.8%
あなた<生徒>は全体として授業内容・授業方法等に満足していますか？
- 家庭学習時間増加 1年生<平日>70分(71分) <休日>90分(86分)
2年生<平日>90分(84分) <休日>120分(107分)
- 長期休業中の講習充実 講習講座数100講座(64講座)参考；令和4年度は79講座
講座参加生徒数・延べ2600名(1795名)
- 資格・検定等合格者数 実用英語検定準1級 10名(7名)
同 2級 170名(144名)
同 準2級 170名(136名)
- 進学実績向上 国公立大学<四年制>合格者数 現役・浪人合計 15名(14名)
難関私立大学合格者数<早慶上理>現役・浪人合計 10名(8名)
私立大学合格者数<GMARCH> 現役・浪人合計 110名(106名)
私立大学<成成明学獨國武> 現役・浪人合計 85名(82名)
大学入学共通テスト出願者数 220名(220名)
- 進路指導満足度向上 80%(67.2%)参考；令和4年度74.5%
- 部活動充実 90%(87.3%)
- 特別活動充実 90%(90.5%) 過去最高値は2年度の94.6%
- 年間のベ遅刻回数 1200回 1年生 300回 2年生 400回 3年生 500回